



2021年10月14日

各位

会社名 株式会社トゥエンティフォーセブン
代表者名 代表取締役社長 小島 礼大
(コード番号：7074 東証マザーズ)
問合せ先 取締役 コーポレート本部長 下川 智広
(Tel. 03-6432-4258)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を主要因とする最近の業績動向等を踏まえ、未定としておりました2021年11月期通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

業績予想の修正について

(1) 2021年11月期通期業績予想の修正 (2020年12月1日～2021年11月30日)

【個別】

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前期実績(A)	5,700	△1,013	△984	△1,500	△333円39銭
今回発表予想(B)	5,415	△80	△73	△168	△37円35銭
増減額(B-A)	△284	933	911	1,331	—
増減率(%)	△5.0	—	—	—	—

(2) 修正理由

2021年11月期の業績予想につきましては、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う影響により、合理的な業績予想の算定が困難であるため、未定とさせていただいておりましたが、最近の業績動向を踏まえ算定いたしましたので公表させていただきます。

新型コロナウイルス感染症の長期化により、感染拡大地域において緊急事態宣言が長期にわたり継続しており、社会経済活動が大きく制限されました。同感染症のワクチン接種には進展があるものの、変異株が猛威をふるい、依然として予断を許さない先行き不透明な状況が続いております。

このような経営環境の中、「世界中の人々から常に必要とされる企業を創る」という企業理念のもと、パーソナルトレーニングジム事業「24/7Workout」及びパーソナル英会話スクール

事業「24/7English」においては、感染予防に最大限留意したうえで、通常営業を継続してまいりました。

当社の主力事業である「24/7Workout」においては、感染拡大の影響が長期化している中でも効率性を重視してのWeb集客に注力したものの、第2四半期以降、新規顧客の獲得が低迷いたしました。一方で、当社の3大コストである人件費、広告宣伝費、地代家賃の抑制を中心に、売上高水準に応じたコントロールを徹底したことで、第2四半期に続き、当第3四半期会計期間においても営業黒字を継続、また、当第3四半期累計期間においても営業黒字に回復いたしました。

また、緊急事態宣言が2021年9月30日に解除されました。当期においては感染拡大の影響が残ると想定するものの、解除後の顧客ニーズの変化をいち早く捉え、2022年11月期の需要回復を見越して当第4四半期会計期間より広告宣伝活動を強化すること等により、積極的な新規顧客獲得に努めてまいります。

一方、「24/7English」については、長引く海外渡航の規制もあり、短期集中型で英語力を高めたい需要の低迷が続くことを踏まえ、短期集中型かつ対面レッスン型のサービスを提供する既存店舗の統廃合を積極的に推進してまいりました。同時に、非対面方の新サービス「BSS (Bilingual Study Support) 英会話」に注力することで、より手軽な英会話レッスン需要の喚起に努めてまいりましたが、いわゆるビフォーコロナの際の水準には至っておらず、感染拡大の影響が長期化すると見込んでおります。

これらによる業績への影響を織り込んだ結果、2021年11月期通期業績予想を上記のとおり修正いたします。今後、業績予想の修正が必要と判断される場合には、速やかに開示いたします。

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により異なる可能性があります。

以上